

子ども・子育て支援に関するアンケート調査報告書 (概要版)

【調査の目的】

就学前児及び小学生の教育・保育に関する現在の利用状況と利用希望を把握し、子ども・子育て支援法に基づく、5年間（平成27～31年度）を一期とする「子ども・子育て支援事業計画」の期間内における地域の実情に応じた計画策定を行うため、アンケート調査を実施した。

このアンケート調査の結果については、今後の施策の検討に活用し、新たな計画策定に反映させていただきます。

【調査の概要】

(1) 調査対象者

- ① 就学前児の保護者 1,200人
- ② 小学生の保護者 600人

(2) 調査方法

就学前児の保護者及び小学生の保護者にそれぞれ異なる調査票を郵送により配布・回収

(3) 抽出方法

平成25年10月15日現在の福生市在住0歳～11歳までのお子さんを住民基本台帳から無作為に抽出

(4) 調査項目

- ① 就学前児の保護者 設問 35問
- ② 小学生の保護者 設問 24問

(5) 調査期間

調査票の発送 平成25年10月28日（月）

調査票の回収 平成25年10月29日（火）から平成25年11月11日（月）

※礼状兼督促を1回発送

(6) 回収結果

- ① 就学前児の保護者 599人/1,200人 (回収率49.9%)
- ② 小学生の保護者 337人/600人 (回収率56.2%)
- 全児童の保護者計 936人/1,800人 (回収率52.0%)

《参考》

平成21年5月後期次世代育成支援行動計画策定に伴うニーズ調査結果

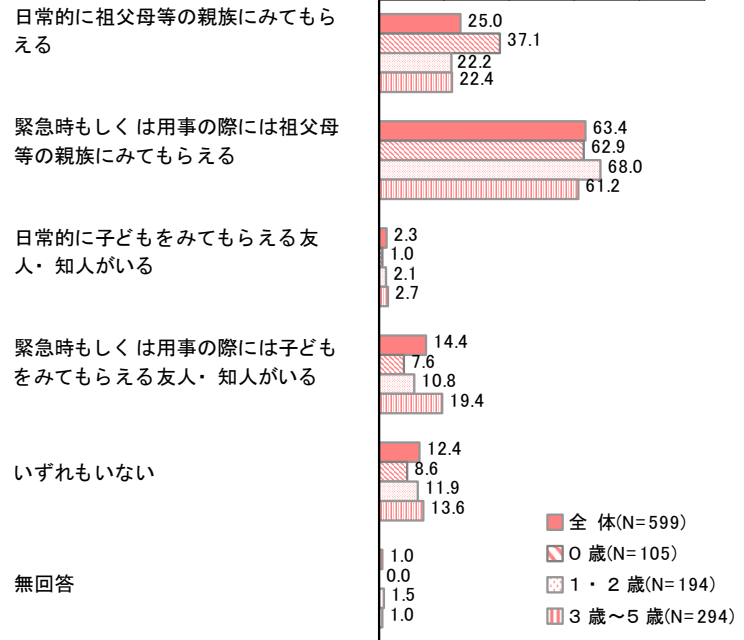
- ① 就学前児の保護者 566人/1,200人 (回収率47.2%)
- ② 小学生の保護者 265人/600人 (回収率44.2%)
- 全児童の保護者計 831人/1,800人 (回収率46.2%)

1 お子さんご家族の状況について

子どもをみてもらえる親族・知人

- 0歳、1・2歳、3～5歳ともに、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が最も多く、60%を超えています。
- 0歳児は他の年齢に比べて、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が37.1%となっています。
- 少数ではあるものの、すべての年代で「いずれもない」が全体で12.4%となっています。

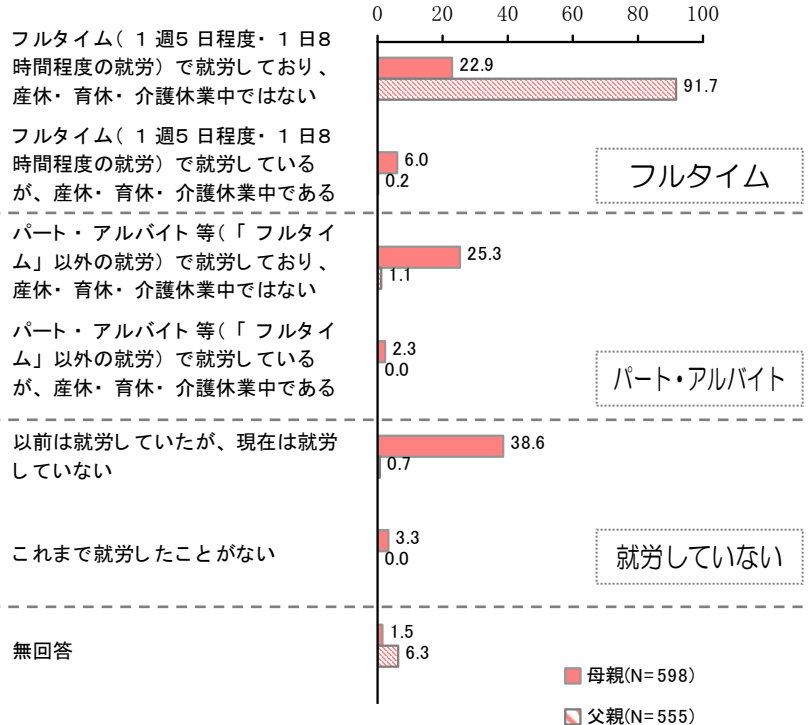
【就学前児童調査】



母親と父親の就労状況

- 母親は、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が38.6%、次いで「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が25.3%となっています。
- 父親は、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が91.7%となっています。

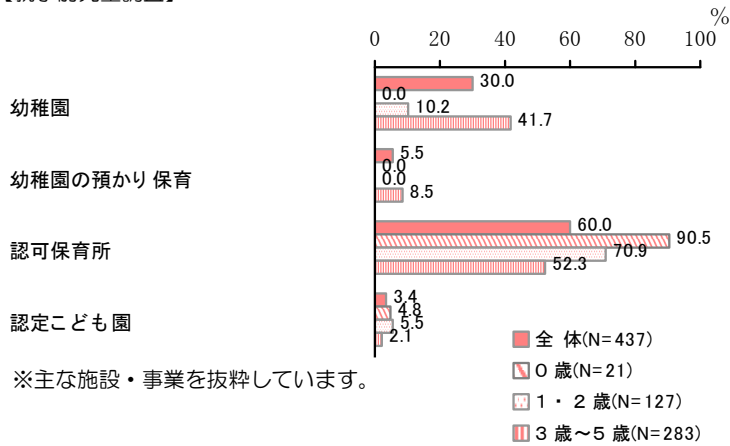
【就学前児童調査】



2 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について

平日利用している教育・保育事業

【就学前児童調査】



・幼稚園や保育所などの「定期的な教育・保育の事業」を利用している割合は全体で73.0%（437件/599件）となっています。

・その内訳はすべての年齢で「認可保育所」が高く、0歳で90.5%、1・2歳で70.9%、3歳～5歳で52.3%となっています。

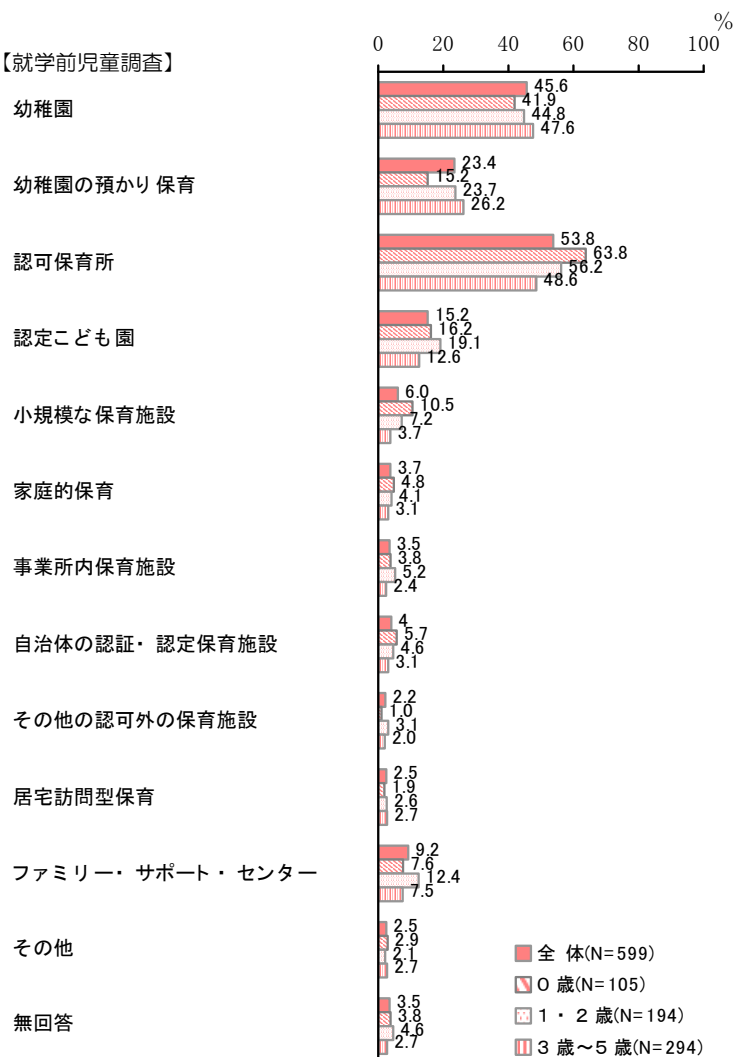
平日利用したい教育・保育事業

・現在、利用している、利用していないにかかわらず、お子さんの平日の教育・保育の事業として、「定期的に」利用したいと考える事業については、すべての年齢で「認可保育所」と「幼稚園」の割合が高くなっています。

・平日利用している状況（上段）と比較すると0歳、1・2歳で「幼稚園」の割合が高くなっているとともに、「幼稚園の預かり保育」への平日利用したいという希望の割合も高くなっています。

・「認定こども園」の利用希望も利用状況（上段）と比較すると高くなっています。

【就学前児童調査】

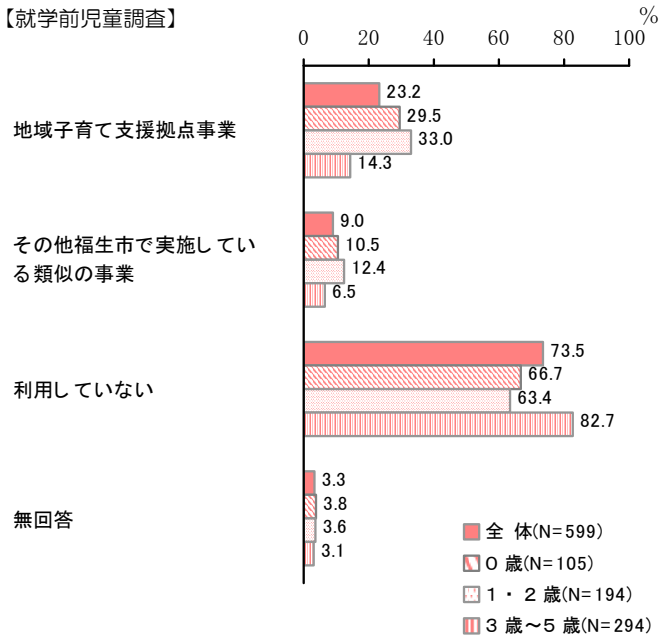


3 地域の子育て支援事業の利用状況について

地域子育て支援拠点事業の利用状況

- 地域子育て支援拠点事業（親子が集まって過ごしたり、相談をしたり、情報提供を受けたりする場）を利用しているかについて、「利用していない」の割合が高くなっており、3～5歳では82.7%となっています。
- 「地域子育て支援拠点事業を利用している」の割合は1・2歳で33%となっています。
- その他、福生市で実施している類似事業は、子ども家庭支援センター・保健センター・公民館などが該当します。

【就学前児童調査】

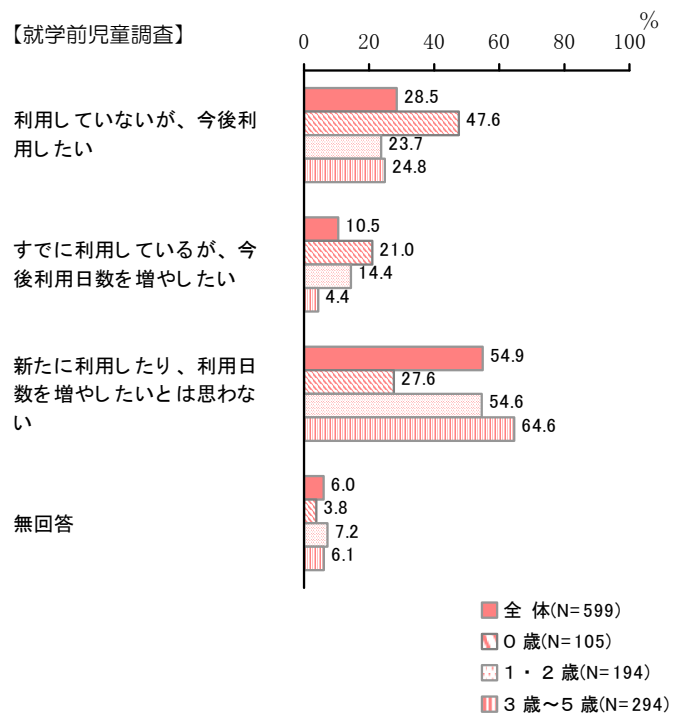


- 「地域子育て支援拠点」…児童館の乳幼児対象事業や保育園で実施しているひろば事業、子育て相談事業です。

地域子育て支援拠点事業の利用希望

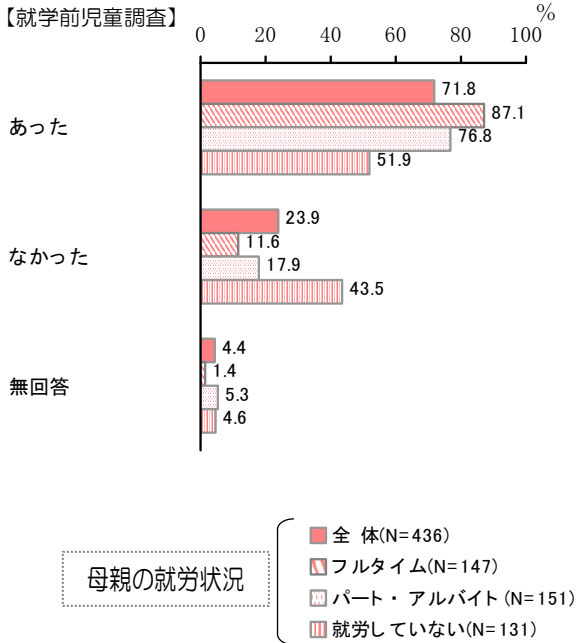
- 地域子育て支援拠点事業について、「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」が全体で54.9%となっています。
- 「利用していないが、今後利用したい」が0歳で47.6%と特に高くなっています。

【就学前児童調査】

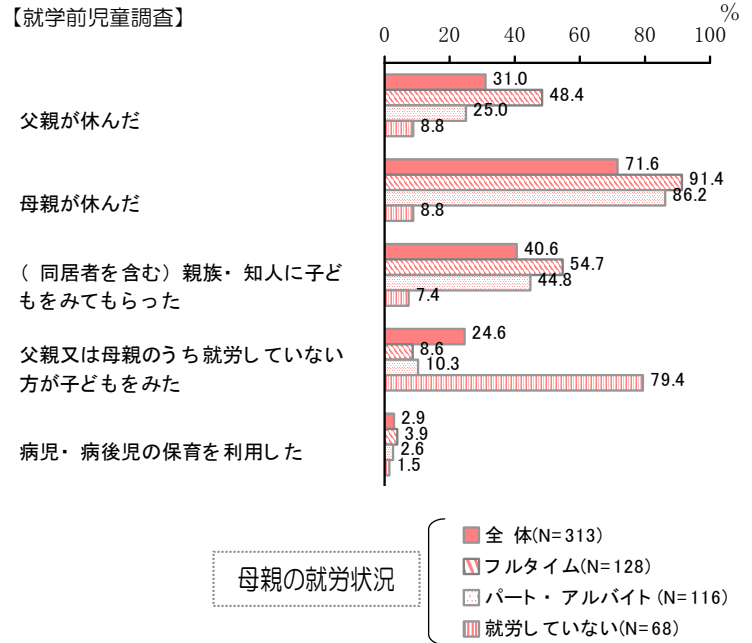


4 一時預かり等の短時間サービスについて

病気やケガで通常の事業が利用できなかった



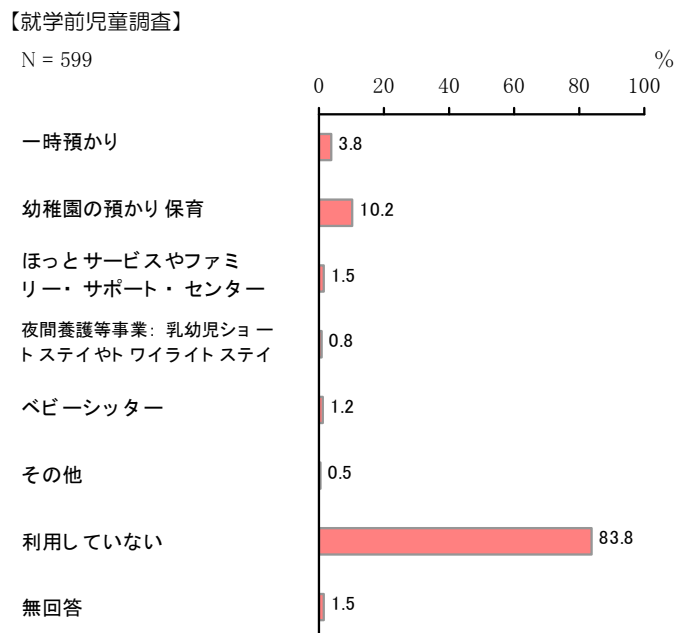
主な対処方法



- 1年間に、お子さんが病気やケガで通常の事業が利用できなかったことが「あった」が全体で71.8%となっています。
- 対処方法として、フルタイムとパート・アルバイトで「母親が休んだ」が全体で71.6%と最も高くなっています。また、フルタイムでは「父親が休んだ」が48.4%と高くなっています。

不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用

- 日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用している事業はあるかについて、「利用していない」が83.8%と最も高くなっています。

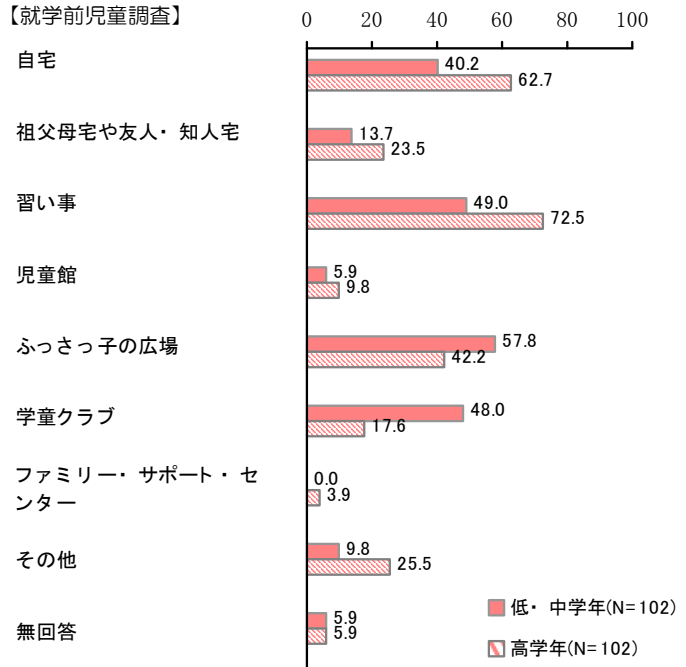


5 小学校就学後の放課後の過ごし方について

就学前児童（5歳）の保護者の小学校にあがってからの希望

- お子さん（5歳）について、小学校にあがってからの放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいかについて、低・中学年（1～4年生）では、「ふっさっ子の広場」が57.8%、「習い事」が49%、「学童クラブ」が48%の順になっています。
- 高学年（5・6年生）では、「習い事」が72.5%と最も多く、次いで「自宅」が62.7%となっています。

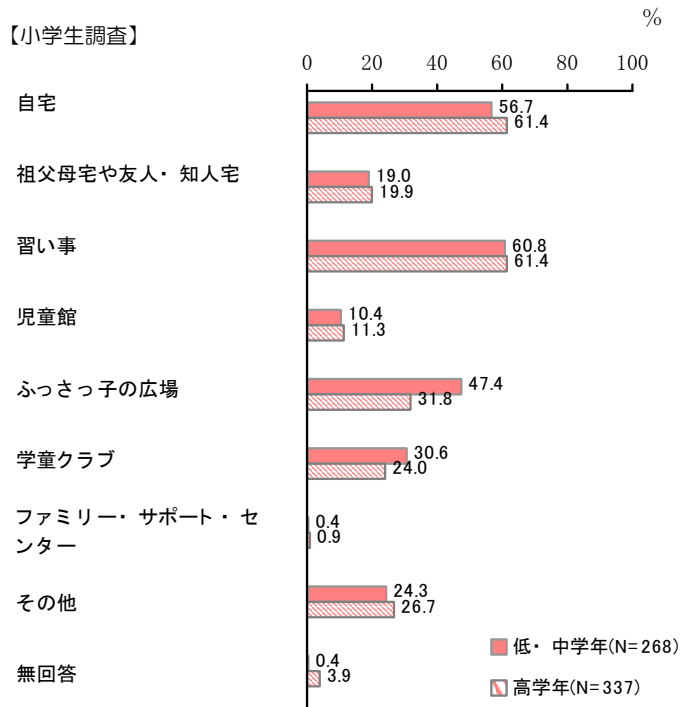
【就学前児童調査】



小学生の保護者の希望

- お子さんについて、低・中学年（1～4年生）のうち、放課後の時間をどのような場所で過ごさせたいかについて、「習い事」が60.8%、「自宅」が56.7%と高くなっています。
- 学童クラブが小学校6年生（高学年）まで利用可能となった場合、放課後の時間をどのような場所で過ごさせたいかについて、「自宅」、「習い事」とともに61.4%と高くなっています。

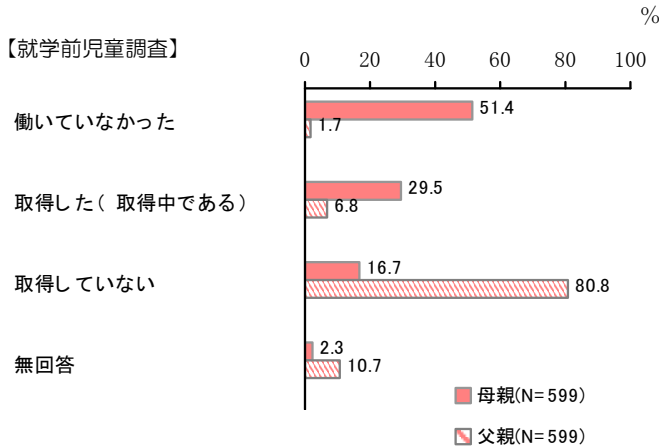
【小学生調査】



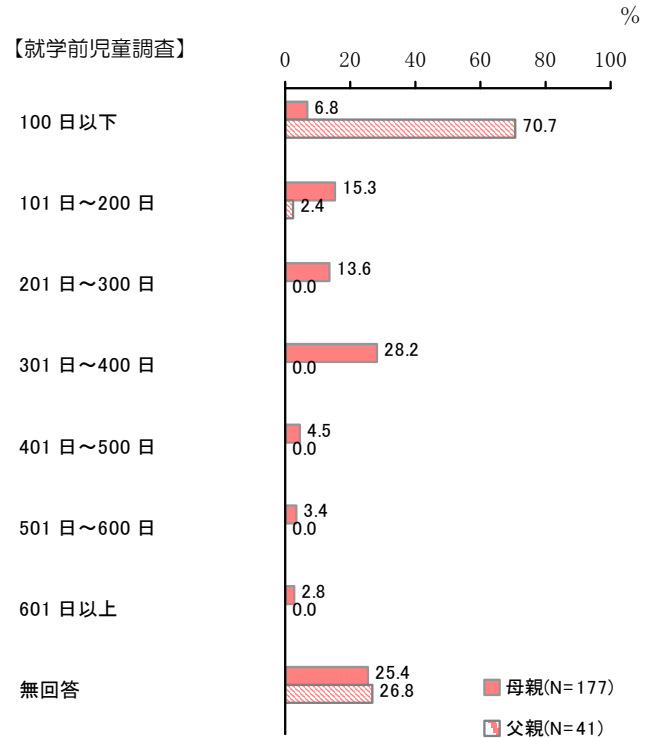
- 「学童クラブ」…保護者が就労等により昼間家庭にいない場合などに、指導員の下、子どもの生活の場を提供するものです。
- 「ふっさっ子の広場」…放課後に小学校内の施設や校庭を利用し、安全な見守りの中で、子どもが安心して楽しくすごせる「学び・体験・交流」の場です。

6 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について

育児休業の取得状況



育児休業の取得日数



- 育児休業を取得した(取得中)が母親は29.5%、父親は6.8%となっています。
- 母親の取得日数では「301日~400日」が28.2%となっております。

取得していない理由

【就学前児童調査】

	件数	職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった	仕事が忙しかった	仕事に戻るのが難しくそうだった(産休後に)仕事に早く復帰したかった	昇給・昇格などが遅れそうだった	収入減となり、経済的に苦しくなる	保育所(園)などに預けることができた	配偶者が育児休業制度を利用した	配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった	子育てや家事に専念するため退職した	職場に育児休業の制度がなかった(就業規則に定めがなかった)	有期雇用のため育児休業の取得要件を満たさなかった	育児休業を取得できなかった	産前産後の休暇(産前6週間、産後8週間)を取得できることを知らず、退職した	その他	無回答	
母親	100	13.0	7.0	5.0	8.0	0.0	11.0	7.0	0.0	5.0	36.0	24.0	9.0	3.0	2.0	23.0	3.0
父親	484	34.3	36.8	0.0	4.1	6.8	30.4	1.2	19.2	29.8	1.0	12.6	0.6	1.9	0.0	10.5	7.0

- 育児休業を取得していない方の理由は、母親で、「子育てや家事に専念するため退職した」が36%と最も多く、次いで「職場に育児休業の制度がなかった」が24%となっています。
- 父親では、「仕事が忙しかった」が38.6%、次いで「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が34.3%、「収入減となり、経済的に苦しくなる」が30.4%となっています。

7 子育て全般について

子育てで不安や負担と感ずること

【就学前児童・小学生調査】

	件数	子どもの健康に不安がある	子どもの発育・発達に不安がある	子どもの食事や栄養に不安がある	子どもの教育に不安がある	子どものしつけに不安がある	子どもの友だちつきあいに不安がある	配偶者の協力が少ない	配偶者と子育ての意見が合わない	配偶者と子育ての意見が合わない	子育てにかかる経済的な負担が大きい	子育てにかかる経済的負担が大きい	子育ての大変さを身近な人が理解してくれない	配偶者以外に子育てを手伝ってくれる人がいない	地域の子育て支援サービスの内容や利用・申込方法がよくわからない	住宅が狭い	不安や負担などは感じない	その他	無回答
就学前児童	599	14.9	13.4	21.9	28.4	46.1	20.0	13.9	6.2	38.4	4.3	12.0	7.2	17.5	6.7	8.2	3.7		
小学生	337	9.5	14.2	16.0	40.9	31.8	32.6	12.8	6.2	45.4	2.1	5.0	5.3	15.7	8.6	5.6	5.6		

子育てに必要な支援・対策

【就学前児童・小学生調査】

	件数	地域の充実	地域における子育て支援の充実	保育サービスの充実	子育て支援のネットワークづくり	地域における子どもの活動拠点の充実	妊娠・出産に対する支援	母親・乳児に対する安心感	子どもの教育環境	子育てしやすい住居・まちの環境面での充実	仕事と家庭生活の両立	子どもを対象にした犯罪・事故の軽減	特別な支援を要する児童への支援	その他	無回答
就学前児童	599	23.5	29.0	6.3	11.7	9.2	8.5	22.9	25.2	25.9	21.9	3.5	2.2	26.2	
小学生	337	24.0	8.6	5.9	17.8	5.0	3.3	36.2	24.9	25.5	35.0	7.7	4.7	16.9	

- 子育てに関して、不安や負担などを感じることにについては、就学前児調査では、「子どものしつけに不安がある」が46.1%と最も高く、小学生調査では、「子育てにかかる経済的な負担が大きい」が45.4%となっています。
- 子育てをする中で、どのような支援・対策が有効と感じているかについては、就学前児童調査では、「保育サービスの充実」が29%と最も高く、小学生調査では、「子どもの教育環境」が36.2%高くなっています。

子育てしやすいまちか

- 福生市は子育てしやすいまちだと思いますかについては、「そう思う」と「ある程度そう思う」をあわせた“子育てしやすいまちだと思う”が就学前調査では、63.9%、小学生調査では、63.2%となっています。

